



小田原史談

第24号 談会
 小田原史一丁目
 発行所 小田原市幸文館
 小田原市幸文館
 郷土文化

印刷の御用は
 清水印刷
 小田原市幸一ノ一七
 電話小田原三四七七番

神社

「神社は、日本民族固有の信仰形態で、ここに祭られている神々は、民族の祖神であり、国土開拓の功績神である。その発生は日本民族の社会生活の形成に伴ったもので神社と聚落とは切っても切れない関係にある。氏神と氏子との名で示されている関係は、神社の存在が他宗教と異なる所以を示すもので、町ぐるみ・村ぐるみの崇敬を受ける点から見ても、公共の福祉に関係の深いことが知られる。」

神社が町村の氏子の共同の誓いの場であり、祈願・感謝の場であることは、ここから生れて来る。

日本の神社の数は八万有余ある。この数は日本の旧大字村の数とはほぼ同じである。という意味は、旧大字村一つには必ず一神社が存在していることを意味し、旧大字村は神社を中心として、共同の精神生活に生きてきたことを意味する。

神社は日本人の心の故郷であると言われる所以がここにある。

神社の建築物は、日本民族の民家史の発展と比例するもので、伝統の姿、発展の姿が、それぞれの神社建築の中に残されている。また民族信奉の神を奉斎する形は、自分達の精神の在り方を象徴するため、清素であり、善美を尽している姿の一点一割にも、民族性のあらわれが窺われる。(神社本庁・国学院大学等の発行せる日本の神社と祭より)

古人の詠んだ

秋風 (二)

後鳥羽院 (純拾遺集)
 天のはら雲吹きはらふ秋風
 に山の端高く出る月かけ
 平宣時朝臣 (新後撰集)
 誰か又秋風ならで故郷の庭
 の浅茅の露もはらはむ

永福門院 (玉葉集)
 夕ぐれの庭すさまじき秋風
 に桐の葉落ちて村雨ぞ降る
 藤原顯盛 (統千載集)
 尾花吹く仮庵寒き秋風に宇
 治の都は衣うつなり
 大納言資季 (統後撰集)
 真葛原うらふきかへす秋風
 に三室の山は色つきにけり

大江宗秀 (風雅集)
 秋風にうす霧はるゝ山の端
 を越へて近づく雁の一つら
 前僧正道恒 (新千載集)
 呉竹の葉わけの露に誘はれ
 て月もたまらぬ秋風ぞ吹く
 権中納言公雄 (新拾遺集)
 明け渡る山もと遠く霧晴れ
 て田のもあらはに秋風ぞ吹く

兵部卿長綱 (新後拾遺集)
 小夜衣うつ声寒く秋風の吹
 けゆく袖に霜やおくらむ
 源和氏 (新統古今集)
 萩の葉に首づれ初る秋風の
 吹かぬ袖さへ露そこぼるゝ
 山上憶良 (万葉集)
 秋の野に咲きたる花を指を
 折りかき算ふれば七草の花



写真 上は 伊勢神宮拝殿

下は 箱根神社湖畔鳥居



古代のわが郷土

内田 武雄

(三)

小八幡は明治十八年七月二十八日稿の皇國地誌小八幡村誌に高田郷に属して...

が解ります。当時頼朝公の祀つた八幡宮は小八幡(古八幡)から御神札を移したと言われ...

あれば、下千代に高屋町がある。上千代に西河原が...

に述べた国分寺が海老名に移った後に市も高田の地に...

おどり河原の物語

千代小学校六年

青木あけみ

昔、吉田島に「うしのじょう」という、村名主さん...

と云って、通りすぎようとしました。すると川の水草...

話のひろば

中日誌など書いておられます。(内田記)

濡衣の由来

ぬれぎぬを着たとか着せられたとかいうが、その由来は...

裁判がいかに難しいものであるかという事は、今度...

そこでぬれ衣を着るといふ言葉は、古代大和の夏河...

あけみさんは郷土の研究に興味を有し、このほかたくさんのお話や、府...

仇討考

蓑田 天 峰

江戸末期小田原藩の有名な話であります。これが公式の許可を得た敵討の最後のものであった。事の起りは大久保加賀守の家来成清が乱心して、浅田只助に手紙を負わせ、只助は翌日死亡したので、只助の養子鉄藏および美子の門次郎より敵討願が加賀守に出された。そこで文政三年八月二十一日(今より約百十五年)加賀守より幕府に帳付を届出で、そのあと二十四日に加賀守は鉄藏・門次郎二人の敵討願を許可しています。その際に二人に対して、次の通りの仰渡(おおせわたし)が出ています。それが、それによって当時の敵討に関する考えがよく現われていると思えます。

今般親の敵討相願候に於て申頭(かしら)に於て申開け候通り、父仇には共に天を戴かざるの理にて、左も之有べき之義と、尤至極之心底、委細御聴に入れ候。奇時之御沙汰之有り、公儀(幕府のこと)御奉行所に於ても、必竟旧家之家来は格別之義と御沙汰も宜しく御座候に付、鉄藏は養子之身分、門次郎事は美子にて、右体大望願立候心底奇時之儀、首尾能大

望相違たる上は、其上に於て孝道も相立ち、其上格別之御沙汰に及ばざる候、万一未練之働之有るに於ては、一己之恥のみ之無く、御上之御名をも汚候事に付、随分勇氣を上げまし堅固に相償し、目出度く帰参候様、此段申開け候。

この仰渡によって、当時の敵討の世情がわかるのであります。要するに敵討は当時美談として認められていたことは、芝居などにもよく敵討が演ぜられ、敵役は悪人として観衆より憎しみをもって見られていた。

さて敵討に出て敵に出会ったときは、先ずその地の領主に敵討の許可を願出でねばならぬ。願出を受けた領主は敵と認められる者を召捕って幕府の指示を受ける。幕府は町奉行所の帳付を調べて、敵討に相違ないことを確かめて、領主あてに敵討をさせるように指令する。この場合には領主は竹矢来等を設けて斬合の場所を定め、検視役等を立会わせる。一般公衆は矢来いよ外から見物と許す。いよいよ双方が揃うと、木桶で湯漬を与え、水盃をさせ、双方が盃を授けるのを合図に勝負がはじまる。

これが定法であるが、実際はかかる場合は少く、街路などで出会うと、敵討の方から名乗って直ちに果し合いがはじまる。敵を打果してからその地の支配役人に届ける。支配役人から領主に申出でて幕府の差圖を受ける。その間敵討はお預けということになるが、所定の手紙をふまないで敵討をした者は、刑事責任を負わねばならず、一応は大小刀を取上げられるという不名誉を入れられるという不名誉を味わねばなりません。名を敵討にかりて意趣を晴らす輩のないように取締を厳重にして、これらは辻斬り強盗と同じように処分されました。なお正当の敵討でも神社・仏閣を避けて地域外で勝負を決せねばなりません。

敵討の制度がいつから行われたかははっきりしませんが、奈良時代の刑法律には「移郷」という制度があります。これは人を殺したのち赦免にあつてからそのまますその土地に居ると、死者の親族から復讐される危険があるのと、他郷に移居せしめるという制度で、これも敵討に関連しますが、これは敵討の奨励でなく、反対に敵討を避けるという制度であります。

享保年間に町奉行大岡越前守の作つた「享保度法律類寄」に、当時行われた敵討の無罪なることを認めています。これによって見て、敵討を合法的なものとした

文苑

小田原八景

国府津耕地落雁

たかみねのをみねうち越へてふるさとをこぶづの畑に落雁がね

連歌橋夕照

さす汐にあらそひかねてまり子川夕日のかげもなみにたゆたふ

住吉松夜雨

このもとに人住みよしの松のかげ雨もいくよをかきわてそふる

大稻荷山晴嵐

やつ山やいなりのもりのあさあかしたかぬししろしもみちちりかふ

長興山晚鐘

夕くれのかねの音聞ゆしらくもの五百重の輿に入生田のさと

二子山暮雪

はこね山あらし吹たへて玉くしけふた子のみねも雪にくれゆく

石橋山秋月

もの夫のむかしをいまにすみわたる石橋山の秋のよの月

早川帰帆

はや川のうらわの浪の末くらく雲よりかへるあまのつりふね

以上八景の和歌は九月末日まで郷土文化館に陳列せる江戸時代より明治時代に於ける郷土地図展のうち明治二十六年版相模名勝図展より転載せるもので、各八景に南面風の絵がかかれており、なお中央には小田原城がえがかれて、それには、家光公小田原城内旅館の際庭園にやり水せし時

の和歌

そらにしらぬ夕立する庭のおもにあつさをながす水のおとかな

当時の歌人吉岡信之と思われ、絵は何人の作か不明である。なお正兄(福住正兄か)として左の和歌がある。

御幸浜

大海のはたのさのもつかへけんみゆきの浜をみればかしこし

<p>あなたの洋品店</p> <p>はふや</p> <p>小田原幸町 TEL 2307</p>	<p>株式会社 小田原百貨店</p> <p>社長 神戸英次郎</p>	<p>きそば庵</p> <p>小田原駅前 電話二八六二番</p>	<p>松坂屋製菓本舗</p> <p>小田原市十字二 電話五二七六番</p>
--	--	---	---

<p>高級陶器の店</p> <p>小田原市緑1~103 小田原銀座通り</p> <p>株式会社 江島屋陶舗</p> <p>TEL (0465) 5427</p>	<p>甘露梅 月の衣</p> <p>小田原駅前</p> <p>正栄堂菓子舗</p> <p>電話 5311 5312</p>	<p>寝具の店</p> <p>花田屋</p> <p>小田原銀座2 電話 3788番</p>	<p>カメラ・写真用品</p> <p>なんでも揃う</p> <p>カメラの光輝堂</p> <p>小田原駅前 TEL 5965 4859</p>
---	--	--	--

<p>東海化成株式会社</p> <p>取締役社長 滝本友信</p> <p>電話小田原五九二七番</p>	<p>資生堂ホールセール(特契店) ベルマン、パピリオドル、マ ナー、キャロン婦人靴下代理店</p> <p>有限会社 山一商店</p> <p>小田原市井細田428 電話 3553</p>	<p>建築金物 家庭金物</p> <p>株式会社 星崎仲吉商店</p> <p>小田原市多古412番地 電話 2718</p>	<p>量表・日用品 問屋</p> <p>茶利商店</p> <p>小田原市多古25 電話2341・2374</p>
---	--	---	---

<p>御料理 仕出し 御弁当</p> <p>株式会社 東華軒</p> <p>代表取締役 飯沼相三郎</p> <p>小田原駅前 TEL (0465) 5061~2</p>	<p>純良医薬品</p> <p>株式会社 オタワラ薬局</p> <p>錦通り電三、〇四八</p>	<p>化粧品 おしゃれ彩華</p> <p>松屋</p> <p>小田原錦通り 電話三三三三六</p>	<p>松菓 風 千代 菊 銘菓 梅 甘露梅</p> <p>銘菓(県指定の店)</p> <p>電話 2376</p> <p>集栄堂本店</p>
---	---	--	---

<p>平野商会</p> <p>平野久雄</p> <p>小田原市十字三 電話(〇四六五)二四四九番</p>	<p>写真</p> <p>イガラシ</p> <p>小田原市幸3 TEL 2534番</p>	<p>趣味の陶器</p> <p>江島屋</p> <p>小田原箱根口 電話6602</p>	<p>齋澤</p> <p>TEL 3131</p>
---	--	---	----------------------------------

<p>印刷物は</p> <p>弘英印刷</p> <p>小田原市井細田八一 電話四、一〇八番</p>	<p>楽しい生活 明るい読書</p> <p>八小堂</p> <p>小田原駅前 TEL 5388~9</p>	<p>小田原報徳 自動車株式会社 太陽自動車 株式会社</p> <p>代表者 曾我律之助</p>	<p>伊豆箱根鉄道株式会社</p> <p>大雄山線 運営事務所</p>
--	--	--	--